

災害備え「白い小箱」

伊勢学園高 1年生247人分導入



非常食などが入った備蓄品「白い小箱」を運ぶ生徒ら＝伊勢市黒瀬町の伊勢学園高校で

【伊勢】地震や大雨などの大規模災害に備え、伊勢市黒瀬町の伊勢学園高校は二十五日、非常食などが入った生徒用の災害備蓄品「白い小箱」を導入。生徒

らが保管場所への搬入を行い、防災意識を高めた。

白い小箱は、一般社団法人日本非常食推進機構(四日市市)が普及、啓発に取り組む災害用物資のセット。飲料水や非常食、簡易トイレなどが入っていて、保存期限は約五年。生徒が在学中に使用しなかった場合は、卒業時に同機構を通じて地域の防災支援や海外食糧支援として寄付することができ、県内を中心とした小中高校など二十校以上で導入されている。

同校は今回、一年生の二百四十七人分を導入し、生徒会役員六人が搬入作業に参加。白い小箱の梱包、納品作業を請け負う明和町の

障害者支援施設「四季の里杜の作業所」の利用者らと共に、保管場所である体育館の倉庫に運び入れた。今後、新入生入学時に人数分を追加し、有事に備える。

皿屋敏夫校長は「大地震が予想される地域。生徒らの防災意識の向上を図り、福祉や社会貢献に対する教育にもつなげたい」と話していた。